

# さ ざ ん か

第88号、2009年2月

2月は逃げ月とかいって、通常の月とたった2、3日の違いにもかかわらず、本当に逃げるようにして日々が過ぎてしまいました。

久しぶりに明るいニュースといえば映画「おくりびと」「つみきのいえ」と日本人監督の作品がアカデミー賞を受賞したことでしょう。アカデミー賞の最初の授賞式が1929年だそうです。1929年といえば、奇しくも世界恐慌の年です。その後、100年に一度といわれている現在の金融恐慌まで、約80年間、世界的と呼ぶような恐慌はなかったということでしょうか。でも、その間には世界大戦とか、核爆弾の使用（長崎、広島）とか、冷戦とか、社会主義を奉じたソビエト連邦の崩壊とか、数多くの戦争（ベトナム、ユーゴスラビア、中東、イラク、および多くのアフリカにおける内戦など）などがあり、必ずしも経済だけで世の中が印象づけられたわけでもなさそうです。人類そのものの危機（環境破壊や核爆弾の使用）から比べると、より鳥瞰的には不況は何とかなるのかもしれないですね。物理的に核爆弾を落とされる恐怖と比べれば、お金がないくらいはいたしたことはないかもしれません。すぐ、隣の国が無法に核爆弾を作って持っているとしたら、なんともおそろしいことです。しかも、「まさか常識的にそんなことはしないだろう」と云うことを平気でしてきた人達（日本人拉致や大韓航空機爆破など）ですから、余計に心配になります。核爆弾で愛する人達の命をを奪われてからは、いくら悔やんでも遅いのです。政府はもう少し毅然とした態度で「ならず者」国家に対して欲しいとおもいますが、今の政府を見るととてもその能力があるとは思えません。核問題は本当に怖いとおもっているのでしょうか。一部では、イスラム原理主義者とかイスラエルとか北朝鮮とかテロリストが核を使用する機会はそう遠くない時期である可能性が高いともいわれています。せっかく、明るいニュースで話を明るくしようとおもったのですが、不況の現実を見るととても明るくしてられないところです。こんな時だからこそ、明るく！ ともおもいますが、そしたら一年中明るくしていなければならぬということになり、まるでアホですが、意外とそういうアホみたいな生き方も良いのかもしれないですね。

俳句

西屋敷喜美子

かみ碎く 沢庵の音 心地良し  
 初湯出て 老醜隠す 薄化粧  
 冬の蛇 夕餉の支度 捗らず

## 病院からのお知らせ

- \* インフルエンザはようやく終息しかけていますが、それでもぼつぼつと発生しているようです。うがい、手洗い励行はもう少し続けましょう。
- \* 神経内科外来は火曜日が鹿児島大学からの応援医師、それ以外は高橋先生の担当になります。
- \* 毎月第3金曜日の血液外来は前院長の野村紘一郎先生の担当になります。その他肝臓病外来、糖尿病外来（月、金：福重先生）の専門外来も開設しております。
- \* 4月から研修医が当院で1年間の研修を開始しております。米澤英理先生です。よろしくお願いたします。
- \* 脳神経外科外来について：鹿児島大学病院から応援にきていただいている外来は週2回開設しております。火曜日と金曜日です。お間違えないよう。なお、4月からはやむなき事情により週1回金曜日のみになる予定です。詳細は脳神経外科外来でお尋ね下さい。
- \* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてはいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- \* MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかり予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- \* MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- \* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

## 人間の定命

宮園辰夫

世の中は親しい友達、また愛する人を亡くした方、沢山いらっしゃると思います。うちの主人はあんなにいい人であったのに、またうちの息子はあんなによい子であったのに、どうしてあんな死に方をしたのだろう、とと思っている人、又そう思う人、色々あると思います。しかし、それは運命であり、定命というものだそうです。それは皆、生まれた時から定められた定命だそうです。

それには絶対に逆らえないんです。いくら薬を飲んでも、注射をしても一時的な現象で、運命には逆らえない。だからその人は定命を全うしたと思ってやらなくてはならない。又、逆にどうしてあんな苦しい思いや、苦しい死に方をしたのだらうと思えますけど、それはその人が悪いことをして、罰が当たったのだとか、それは違うものです。人間皆生まれた時から定命をもって生まれてきたのだからなんです。

そのように考へれば、納得がいくのです。だから、明日と云う日があろうと、なかろうと、今日を精一杯生きて悔いのない生き方をすることが、また、楽しい。私はそのように万分の一でも考へるようにして、病院に通っています。だから、早起きして熟睡できるように、又感謝して恩を忘れないようにし、趣味をもち、責任を果たし、礼儀正しく人と融和を計り、人も自分も尊敬できるように、できるかな。不幸は自分で作っている。心が暗い。不愉快に暮らす不満や愚痴が多く、やる気がない。物や時間を無駄にする。陰口が多くて、和を乱す。色々な事に自信をなくし焦ると、法規が守れない。

偉そうなことを書くけれども、とてもじゃない。それより、ボケないようにしなければ。仲間をたくさん作り、気持ちを若くもたないといけない。人の世話ができて人に感謝が出来ないといけない。そして読み書きをし、よく笑い、感動することも忘れない。出来れば趣味をもち、楽しみ、旅が好きな人はぼけない。

### 冬木立

大空を二回廻って御礼して 青空の気流にのり北帰行

雪の朝 学童にまぎれ行く ひときわ小さき娘見送る

発作にて血圧徐々に下がりゆくを 終の命かと思ひていたり

### さつま狂句

年取れば 級友が一人一人逝ちて

へぼ将棋負けた限り来んごつなっ

選挙前 遠縁か親類も兄弟ごつ云っ

絆。私はこのことばに魅了された一人である。この世に、皆と同じように生を授かり、生かされている一人であり感謝しています。両親との間に、兄弟、姉妹も多かった。幼少の頃から躰に対しては特に厳しかった父親。併し、勉強、運動は勿論、お手伝い等した時は、必ず褒めてくれた母親を思い出す。当時の両親の気持ち、今判る気がする。良く聞く言葉で親子の絆と云いますが、兄弟、姉妹、友人、知人、クラスメイト、医師、看護師、患者、皆この言葉どおりに絶えがたい強い愛情でつながっているのではなかろうか。

この世の中は、すべてみんなが絆によって生かされていることを信じる。人を愛し、愛される気持ちを忘れてはならない。誰もが、この絆によって、人間愛を作り、これこそが、最も大切なのではないだろうか。生きてる限り、せめて、自分の人生の中で、良き人間愛を残したい気がしないでもない。損して徳を知れ。人にために尽くすことも悪い気はしない。これこそ、よりいっそうの絆で結ばれる筈です。特に人を憾み、貶す事は何の徳にもならない。逆に、自らが悩み、苦しみ、また哀れにさえ思えるのである。素直な気持ちで、接する事が大切ではないだろうか。人は、優しさ、愛情には敏感なのだ。廻りの皆と仲良く暮らす事が出来た時こそ、素晴らしい絆で、自分達に幸せが訪れるであろう。

---

### うらおもて カラーマン (とその女)

世の中、どんなものにも裏と表がある。いや、どんなものにもってことはないか。たいがいの物には、と云うほうが正確かな。(そうね。裏と表という二分法だけでは説明できないものもたくさんあるわね。大体、あなたには何でも二者択一にしようとする悪い癖があるわね。それに人一倍、裏と表の格差が激しいのもあなただけわ。)

良いか、悪いか。黒か白か。光か影か。オトコかオンナか。(オトコかオンナかという単純に見える問題でさえ染色体でいえば、インターセックス、つまり XXY とかいろいろあるのだものねえ)。善人か悪人か。暗いか明るい。卑怯か勇敢か。好きか嫌い。まあ、いろんなことを考える際の一つの基準としてはこれらを用いて自分の立ち位置とか視点を持つのが普通だろう。

コンビニ受診という言葉がある。コンビニに立ち寄るくらいの気楽さで、いつでも、どこでも、費用をかけずに病院の救急外来を受診するという意味だ。これもオモテの病院側から見ると、生命にかかわる急病の人と区別がつかず、夜中でもいつでもちょっとした発熱やふらつきとか不安感とか、特別に緊急性がない症状で、その都度、当直医が起されては医者が疲弊するばかりだという現実がある。朝から微熱があったが、仕事が忙しくて子供を連れてこれなかったのが夜に受診したとか、夜のほうが待ち時間が少なくてすむからと云う確信犯的な患者も少なからずいるようだ。一方で、一晩中、コンビニ受診でわずらわされた当直医はそのまま朝から通常業務にはいるのである。これはけっこうきつい。

いつの間にか患者側の権利が必要以上に肥大化して、いつでも、どこでも診察を受けるのは当然な患者の権利であり、病院はそれを拒否できないとおもっている人が増えてきたのは確かなような気がする。(まあ、それは例のモンスター両親とかと似たようなものなのね。生徒と教師の関係と似てるってことね。教師が生徒を注意するのに、びくびくするなんてなんか悲しいわね。)

しかも、さらに確実に絶対間違いのない医療を要求しており、ちょっとでも結果が予想通り思わしくなかったら、すぐにクレームである。待ち時間が少し長くてもそれもまたクレーム。職員の態度が気に食わなくてもクレーム。コンビニ受診患者が、高級デパート患者となって、通常の数倍の医療費を支払ってくれるのであればまだ赤字の病院経営の助けにもなるし、あえて我慢しよう。(でも、さすがにコンビニ受診抑制のために、時間外診療を数千円割高にしている病院が増えてきているようね。何千円も余計に払うくらいならちょっと我慢して明日の朝にしよう、と云う気にさせる方策だわ。姑息だわねえ。)

医療者側から見ると、かくもコンビニ受診は困ったものなのである。

それをウラから見てみると。つまり患者側の視点からはちょっと様相が変わってくる。そもそも、人間はそうそう都合良く病院が開いている時間に病気になるわけではない。明日まで待って、ちゃんと時間内に受診しなさいというけれど、受診が遅れたばかりに手遅れになった人はたくさん居るのではないだろうか。なんでもっと早く連れてこなかったのか、緊急なのに翌日まで待つ必要はなかつたらう！などと医者に怒られたりもするのである。悪い時は、いつでも診るのだからすぐに連れてきなさい。その代わり大したことはないときは、できるだけ時間内に受診するように、と言われる。まあ、それはそうだろうと思う。

でも。それ(たいそうなのか、そうでないのか)を誰が判断するのだろうか。それを判断して欲しくて病院に行くのではないだろうか。夜中の頭痛が、実は軽微のくも膜下出血であり大丈夫だろうと放っておいたら、その後まもなく昏睡になって死んでしまったという例もあるではないか。そもそも「こういう症状があったらすぐに病院へ」などとNHKの健康番組では云っているではないか。軽い頭痛が致命的でない、ということを確認めたくて夜中に頭痛がしたら病院に行くのだが、なぜそれが悪いのか。人を治療するだけでなく、人を安心させる、というのも医療の一部ではないのだろうか。いや、もっと言えば、その安心こそが医療の本質に近いのではないか、などと言えなくもない。

(まったく、むずかしいわねえ。結局、お互いの理解と相手を思いやる気持ちが必要ってことなのかしら。一方的な権利意識だけでは上手くいかないし、また義務感だけでは長続

きしないということね。もともと日本人はお互いを思いやる民族だったと思うけどなあ)

基本的には病気の人をいつでも診る、というのが医療であろうと思う。病気は残念ながら殆どが本人の責任ではなく発症することが多い。確信犯的なアルコール中毒者とか麻薬中毒者を除けば、病気になりたくてなっている人はいない。客観的には夜中の小児の発熱は、きちんと親がその病態を理解できていれば必ずしも真夜中に医者叩き起こしてみせる程のものでないことが多い。しかし、1000人に1人でも早く診てれば重症化しなかった例があるとすれば、やはり夜中であっても診察して大丈夫だと言ってもらいたいものである。(それはそうよね。そもそも、診察が遅いほうがいい、ということはないわけだものね。早いにこしたことはないのだから。もともと医療は不確実なんだし・・・)

しかしながら、そのためには、それに伴うだけの十分な医師とか看護師の配置が担保されている場合、という条件がつくであろう。たった一人の医師が昼も、夜も、朝も働き、夜中の発熱患者の安心のためだけに睡眠時間と体力と良心をすり減らしている現状では、おそらく寛容と慈愛に満ちた精神を発揮することは困難である。

結論。結局、医療を経済としてしか捉えていない日本国政府が悪い。絶対に悪い。何が小さな政府だ。何が医療費抑制だ。何が医療費は国を亡ぼすだ。小さな政府と云うと何となく国民の税金を無駄遣いしない、よって国民にとってもそのほうが良いと思わされてしまいが、結局は医療とか福祉とか、教育とかを国が責任を持って背負わない、と云うことである。防衛と警察などのチカラ関係のみを政府の管轄とするということである。コイズミ劇場の本質はここにあったのだ。

小さな政府を支えるのは一部の横暴なアホ官僚のみとなり、医療や、福祉や、教育は国が直接タッチせず民間の市場原理に任せるというシナリオが小泉・竹中劇場のシナリオである。(外資の保険が良い例だわね。自己責任。自己責任)

あえて、主張したい。もし選択するとすれば、高福祉、高負担が望ましいのだ。少々貧乏はしても、最低限、医療にお金がかからず毎月食うだけの年金があれば、人間何とかなるもんだ。贅沢はいらない。そのための負担は覚悟すべきだろう。(ハイリスク、ハイリターンと似たようなものかしらね。もう、これ以上日本人は豊かさそのものを求めないほうが良いのかもしれないわね。モノが豊かになればなるほど、ココロが貧しくなったという経験を大事にしないといけないわ)

---

## 編集後記

---

やっと2月号発刊にこぎつけました。ふーっ。逃げ月の2月の怖さを意外なところで思い知りました。それにしても今年は厳しい寒さを経験することが少ない冬でしたね。寒さに弱い人には気の毒ですが、やはり、冬は冬らしいのがいいですよ。四季のメリハリが美しい日本列島を作ってきたのですから。亜熱帯になるのはイヤだ。(KT)